

木田元著 コンサイス 20世紀思想辞典「エポケー」三省堂刊を読む

エポケー

1. フッサールの現象学の用語で、「判断中止」と訳される。
2. もともとは古代の懐疑主義者ピュロンが、すべての誤謬ごびゅうの根源は物ごとを「...である」と断定する判断にあるのだから、誤謬を避け心を平静に保つためには判断を差し控えればよいと説いたところに由来する。
3. フッサールは、究極的実在としての「世界が存在する」ということを無条件に断定する、自然的態度の「一般定立」を停止する操作をエポケーと呼んだ。
4. 現象学的還元の一環をなす方法的操作である。

[コメント]

木田元教授による「エポケー」の定義。エポケーは、ヨーロッパの多元的国家から生まれたもの、そう考えれば、Conflict 抑止のための極めて現実味を帯びた手法と考えられる。

- 2010年2月16日 林明夫記 -